

新道路技術会議の運営に関する見直しの視点とその対応（案）

番号	意見・指摘等の内容	対応(案)	[参考]現状
. 会議の運営に関すること			
1	委員の任期(原則4～5年程度)について検討すべき	委員任期制(1期2年/原則2期まで)の導入について会議設置要綱に明記。 資料4 - 2参照	設置要綱において毎年委嘱を行うこととしているものの、委員の任期は未設定。
2	委員長の選出手順の明確化	互選による委員長の選出について会議設置要綱に明記。 資料4 - 2参照	設置要綱には定められていない。
3	継続課題において、年度初めの研究委託期間の中断を短縮してほしい	例年3月後半に実施していた中間評価を前倒して2月に実施することにより、年度内に次年度の研究継続を公式に決定するとともに、2年目以降の委託契約の準備を早く開始。 資料4 - 3参照	3年間の研究であっても、3月末に委託契約が一旦終了し、3月の中間評価を踏まえて、翌年度の契約は夏頃開始。
. 新規課題の募集に関すること			
4	今後どのように民間等から幅広く応募を増やしていくか検討すべき	引き続き告知活動を継続するとともに、民間企業等からのさらなる応募促進に向けて、告知媒体の多様化(学会誌への掲載等)を検討していく予定。 資料4 - 4参照	告知チラシを作成し、全国各地の大学、業界団体等へ幅広く配布するとともに、各方面に電子メールを送付し告知情報を提供。
. 研究課題の採択・評価に関すること			
5	研究代表者の途中変更は禁止すべき	募集要領「2.9注意事項」に下記記述を追加。 「なお、止むを得ない特段の事情が無い限り、研究代表者の研究期間中の変更は認められません。研究期間終了まで責任を持って研究遂行が可能な研究代表者を選定下さい。」	研究代表者の途中変更の禁止について、現状では募集要領に未掲載。
6	成果の見通しが厳しい研究については、今後は打ち切りも含めて検討してはどうか	【中間評価】 評価をいっそう厳格に実施し、当初の目標を達成できる見込みのない課題は、研究を中止する。	【中間評価】 複数年度にまたがる研究は、毎年度中間評価を実施し、成果が上がっていない課題については、研究内容の修正、研究費の削減を実施していたが、研究の中止の判断までには至らなかった。
7	ソフト分野の研究については、金額が小さくても良いアイデアの研究を多く採択することを検討してはどうか	【FS評価】 FS研究採択数を増やすとともに、そのFS評価をより厳格化し、見込みのないFSの本採択移行を認めないこととする。(幅広く採択し、厳しく評価)	【FS評価】 FS研究(単年度)は1年後にFS評価を実施し、次年度以降の採択の是非を決定。
. 研究成果の活用に関すること			
8	実用に近い優良な研究成果を現場に活用する取り組みを積極的に推進すべき	研究成果の活用に向けて、NETISへの登録やフィールドの提供等、成果に対応した現場ニーズとマッチングさせ適用促進を図ることを今後検討していく予定。	研究終了後に成果報告会を開催し、研究成果を周知。